

「チーム連携におけるメンバーシップ」 ～周囲と調和し働くための基本的知識について学ぼう～



受講者お一人おひとりが、所属する組織の一員として責任をもち、組織の向かう方向を理解して、自部署の目標達成や質の高い医療・介護の提供に向けメンバーシップを発揮できるように、法人全体で応援します。

入職2年目の職員が、チームの一員としての自覚をもってメンバーシップを発揮できること、多職種連携のあるべき姿から自身の課題を見出すことを目的に開催しました。

■開催日時：①10月8日（水）14:30～16:30 ②10月15日（水）14:30～16:30

■受講者数：212名

助産師4、看護師95、診療放射線技師8、臨床検査技師8、薬剤師5、管理栄養士5、理学療法士33、作業療法士8、社会福祉士5、介護福祉士4、臨床工学科11、救急救命士7、言語聴覚士6、准看護師1、診療情報管理士4、事務職8



研修内容



- 組織のあり方と目標設定について
- チームについて
- メンバーシップの基礎理解
- 多職種連携・協働における職種役割とメンバーシップの発揮
- コミュニケーションについて



受講者の感想（アンケートより）

- 医療コミュニケーションをとる中で一番大切なのは、誰もが理解しやすい話の伝え方をすること。
- 「自立て満足することなく”自律した強い個”になるよう、お互いが意識し合う」という言葉が心に残った。
- 職種分化の欠点には専門職に任せきりになると、他職種の業務内容が見えないなどがあるので、連携を意識することの大切さを改めて感じた。
- 専門性を尊重しながらも多職種連携や協働を意識し、互いに補完し合う関係性を築いていくことの大切さ。
- 各職種が高い専門性を持っていても、連携が行えていなければ患者様に対して良い医療が提供できない。
- 時には周りを引っ張っていくリーダーシップと、時にはリーダーとして引っ張ってくれるメンバーを支えるフォロワーシップを折り混ぜながらメンバーシップを発揮したい。

講師のご紹介

医療法人協和会
第二協立病院
臨床工学科 科長
山中 和也氏

